

(表1)

# 科学と科学技術の限界

第1の限界：科学の使命は、自然現象の中に規則性を認め法則を見いだすこと、自然を超えて科学することはできない。科学が見いだした法則を意識的に活用し、人類の福祉に役立たせるのが科学技術。

科学技術がいかに進歩しても科学の限界を破ることはできない。

第2の限界：どのように優れた法則でも、実証された範囲を著しく超えた判断・予測をすることはできない。既知の法則で律しうる自然現象の範囲はごく限られている。

第3の限界：自然科学は数学的な基盤の上に組み立てられ、相当部分に統計的手法が用いられている。個々に関することや、普遍性が認められていない超常現象と呼ばれる事象を研究の対象とすることはできない。

第4の限界：科学は、医療の可能性・死の可能性について確度高く予測する。一方では、患者・家族は可能性に希望をかける。予測を客観的に見るか、主体的に見るかの違いによって問題が起こる。科学や科学技術は客観的立場に立つもので、主体的立場に立つものでない。

(泉美治：科学者の説く仏教とその哲学、p223,学会出版センター、東京、1992年)